

2008

秋

SINCE 1983



NETWORK VOL.132

TEERRA



左から、古賀大之師範、洋子先生、青柳達也先生（プロフィールはP13）



再船出

季節はその時々を絵巻模様のように映し、私たちの心に喜びを与えてくれます。4月の桜、5月の薔薇、6月の紫陽花、7月の朝顔、8月の向日葵、9月のコスモスそして10月の金木犀。

しかし、その季節の有り様は毎年毎年変わっていきます。今年の金木犀のほのかな甘い香りの中に、古賀武夫先生はいらっしゃいません。平成20年3月17日にお別れしてから、早いもので半年が経ちました。私たちは喪失感と空虚さに囲まれながら、季節が変わっていくのをただ、感じるだけでした。そのような気持ちがより強く残っていたのは、古賀先生が誰も真似のできないようなことをなさってきたからなのでしょう。

数力国を駆使する語学の達人、空手教士七段、NGO活動では比類なき存在、映画製作や零戦復元という普通の人ならば手を出さないことにも挑戦し成し遂げる実行力。誰ひとり、その人にはなれません。でも、いつまでも悲嘆にくれてはいけません。

私たちは古賀先生に薫陶を受ける者たちが少しずつ力を合わせその教え、思いを次の世代に伝えていくことをしていかなければなりません。地球市民の会、夢の学校も5月の総会を経て新体制が整いました、そして、一番の心配でした古賀道場も「新生古賀道場丸」として漕ぎ出すことができるようになりました。武夫先生の思いを受け継ぐ教え子2人が英語教師と空手師範として戻ってきてくれたのです。

英語の青柳達也先生と空手の古賀大之師範。2人にとってそれはこれまでの人生に大きな決断を迫るときでもありました。仕事、家庭、将来、夢・・・多くの迷いもあったと思います。その苦悩の末、道場に集まる子ども達の笑顔に助けられ、古賀先生の歩いた道を引き継いで歩いていこうと心に決めたのでした。

CONTENTS ■ 2008 秋

古賀武夫永久名誉会長の言葉を辿る
「ツイアビ ～南海の酋長を訪ねて」
を再読する 大野 博之 2

■地球市民の会

和顔愛語	佐藤 昭二	3
ハムシー寮完成		4
サイクロン支援完了報告		5
ミャンマー通信	山内 一平	6
タイ奨学金便り 協力隊レポート	西村 尚子 大神 貴謙	7
新かちがらす計画2008報告		8～9

■夢の学校をつくる会

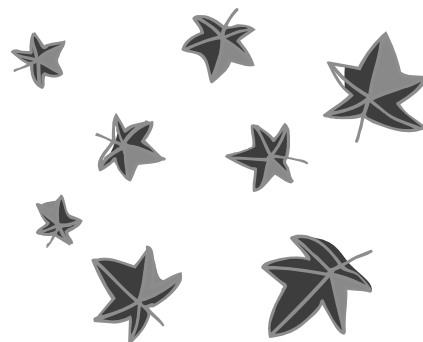
夏タマテ箱2008報告		10
夢の学校への思い 私の考える教育とは？	江打 正敏 前田 星萌	11

■古賀英語・空手道場

古賀先生に教わったもの	松尾 大輔	12
-------------	-------	----

■共同執筆

協力者一覧		13
11～1月のお知らせ スタッフのひとこと「すてられないもの」 事務所住所		14



世界の平和と親善 地域社会の向上発展



古賀武夫永久名誉会長の言葉を辿る

「ツイアビ～南海の酋長を訪ねて」を再読する

大野 博之

「ツイアビ～南海の酋長を訪ねて」は1992年10月に古賀武夫永久名誉会長(以下 古賀先生)がポリネシアの島国西サモアを訪問されたときの記録です。

古賀先生は逝去される間際この著作に対して、「自分のいいことはすべてこれに書かれている。そして、その内容はいささかも変わっていない」と語られていました。そして、すべてのスタッフにこの本を読むように指示をされた。思えば、古賀先生からの我々への最後の指令だったような気がします。

古賀先生は1981年に日本版が発行された「ババラギ」(エーリッヒ・ショルマン著)というノンフィクションに感動し、この作の中に出てくるツイアビという酋長に会いたくなって、西サモアへ飛んでいきました。1850年ごろ(浦賀のペリー来航が1853年)の生まれの人など、当然生きているはずはありません。ツイアビは西洋文明が怒涛のごとく愛する自国・西サモアに流れ込み、古来の文化が廃れ、人身の心が乱れてしまうことに警鐘を鳴らした人でした。古賀先生はご自分が考えていること、つまり近代化の矛盾に対する人類のあり方、を70年も前に語られていたことに感動し、そして、今、どうなったのかが知りたかったのです。西サモアにツイアビを見ることはできるかと。

古賀先生は、西サモアの美しい自然と出会ったとき、「自分は来てよかったのか、異文化というバイ菌を運び込んでいるのではないかと自問しました。その思いは終生に亘っている。問いかけでなし、この著作の大きな主題でもありました。なぜならば、この著書の最後の文は「我々は、もしかすると国際協力という美名の下に『一切必要としないもの』を与え続けているのではなからうか」とあるからです。

西サモアで古賀先生はツイアビの息子と会うことになりました。当時76歳でした。また、西サモアの出版社、サモアオブザーバー社編集者ベタイア氏との邂逅と語らうには大きな収穫を得たようです。3日間の短い滞在でしたが、そこから得られたものは深く心に残ったようで、帰国後その思いを綴ったのがこの著作となりました。

ショルマン著作の『ババラギ』では、ババラギとは、「雲を破って現れた人」で、ヨーロッパ人をさしています。古賀先生はこれを、日本人を含む「先進国の人」と解釈していました。ですので、この後のババラギとは日本人として読み進むことが古賀先生のメッセージを理解しやすくすると思います。

西サモアのツイアビにとって自然は当たり前のものでした。そして、その当たり前のものに感謝して生きている。ところが、ババラギ(日本人)は森や太陽や日光に強い憧れを抱いている。こういう状態を、普通、病気だとツイアビは言っています。当たり前感謝した日常生活をおくれないからです。確かに日本人は心の病が蔓延している、と古賀先生は分析しています。この傾向は今なお強まっていると感じます。

ツイアビはババラギ(日本人)の一人の人間を量る重さは気高さや勇気や心の輝きではなく、一日にどれくらいお金を稼げるかにある、と語っています。これに対し古賀先生は、肩書きのない名刺を見て日本人の多くは相手を量ることができないだろう、といひます。それは、私たちは肩書きにその人の価値を見えよう傾向にあるという、その人の人間としての存在の価値を「気高さや勇気や心の輝き」ではない別のもの দিয়ে量ってしまっているおかしい状況を指摘しているのです。古賀先生は続けて、「しかし、金や宝石のプレスレットよりも、私にとっては、タイの東北部の村人が健康と幸せを祈りながら手首に巻きつけてくれた綿のひもの方が価値は大きい。」と、目に見えるモノではなくその本質にある「心」に価値を見出すべきだということを述べられています。

もともとサモアには「私の」とか「あなたの」という所有を表す言葉が存在しなかったというところを受けて古賀先生は「自分自身が神の作り賜うた者であり、神の一部と考えるならば、当然、自分と他人の境がなくなる」「人を殺すということは自分を殺すということであり、人の物を盗むというのは、自分の物を盗むことだ」「元来『盗む』とは、自他の区別があると

ころからはじまる。自他の区別がなければ何をとっても盗みではない。『みんなのもの』を共同使用しているだけだ」「自他の区別がない=盗みのない世界、は楽園である」と記述された。古賀先生は「天地と我は同根、万物とわれは一体」という言葉を座右の銘としていました。

ツイアビは弱い人間は欲に負けてしまう人のことだと言った。古賀先生は「知足安分、自分は自分だと安心(あんじん)すること、これが大事だ。自分以外に中心を求めてはいけません。そして、その自分が小さなエゴ(小欲)であってはならない」と答えています。そういえばいつも物事が上手く運ばないときや、資金難のときも「心配するな、心配するな、なるようにしかならない。」と笑いながら話されていたのを思い出します。

ツイアビは「ババラギ(日本人)は欲望と精神が敵意を抱いて対立しているようだ。彼らは、砕けて二つに割れた人間だ」と話しました。これに対し古賀先生は「心と体はひとつだ。とかく勉強をするとバラバラになってしまう。百足(むかで)は考えないから多数の足を秩序立てて動かせる。考えたら絶対にもつれる」と答えています。空手に終生打ち込んだのは、ここに理由があると思います。なぜならば、「空手の稽古は自分の体が頭の思っているようには動いてくれないことを感じさせてくれる。」といつも話されていました。頭で考えるのではなく、体で考えることが必要であり、そのために無為自然を、あるがままを、心身脱落・脱落心身を、空手を通し会得しようとしていたのでしょう。一度、古賀先生に「あるがまま」とは何でしょうか、と尋ねたところ、「常に感謝できる状態にあることだ」と答えられました。または、これを転じて「神だ」とおっしゃることもありました。つまり、あるがままとは、「生かされる己」を知ることにあるということなのでしょう。これが、古賀先生のおっしゃりたいことであつたのなら、古賀先生の「知足安分」とはまさにこのことでもあるのかもしれません。

教育について、ツイアビは「たいていの(ババラギの)子はたくさん思想を頭に詰め込みすぎて、隙間はなく、光さえ差し込んでこない。このことを『教育』とよび、このような頭の混乱状態を『教養』と呼んでいる」といひました。古賀先生は、古賀先生の盟友であるタイ人、故ジャナロン・メキンタランクラの「本物の教育は知識を与えるのではなく知恵を与えることでなければならない。自分そして自然を理解する知恵、そこから自信や、思いやり、思慮が生まれてくる」を引用し「知識は大事だが、心はもっと大事だ。(中略)それには自然や共同体が必要だ。貧を取り戻さねば」と締めています。『貧』とは「知足」であり、他に対する絶大なる『慈悲心』を常に持ち続ける状態のことなのでしょう。これは古賀先生が最後に取り組んだ大仕事である「夢の学校創設事業」の根本であり、すでに16年前に芽生えていた強い力だったのだと思います。

現在、国際協力のみならず、さまざまな分野で「持続可能な開発」という言葉が流行のようになっています。古賀先生はこの著作の中で、ツイアビの言葉は『「持続可能な開発」に腐心する人類全体の文明のあり方に対する偉大なる警鐘』であると述べています。すでに16年前に古賀先生は「持続可能な開発」という言葉にまだ残る「開発」への執着心を見透かしたようでもあります。確かに、現在は「持続可能」という部分に重きを置くようにはなっていますが、これが16年の年月の重みかもしれません。しかし、私たちは「持続可能」という言葉に見え隠れする「失ってしまうかもしれないものへの恐怖」つまり温暖化で消えてしまう氷山や食料問題といったものへの「恐怖心」によるものではないかということに常に自問していなければなりません。なぜならば、それは執着であるからです。

古賀先生は16年前の著作「ツイアビ～南海の酋長を訪ねて」にすべてを語りつくしたとおっしゃいました。確かにこの作品の中に語られていることは今改めて読んでも、現在の社会状況に対する有効な古賀先生からの提案であるといえます。この透徹した先見性が、古賀先生の人を惹きつけてきた理由なのかもしれません。また、すべてがここにあるという言葉には、自分の人生に目指した方向に誤りはなかったという強い自信があったのではないかと感じます。



和顔愛語

佐藤 昭二

●●● アジアの瞳

過ぐる、10月7日、佐賀市エスプラッツギャラリーに於いて、写真家谷山茂氏のミャンマー写真展が開かれた。

ミャンマーの農村、又、そこで働く人々の姿が写し出されていた。どれをとっても、はるか海の向こうの国の風景であるはずなのに、ありし日の自分の故郷、山あいの田舎に見えてくる。

何かしら、昔なつかしい朝もやの香りがする農村風景である。

ことに、この写真展の作品の中に出てくる子ども達の顔を見ると、胸がつまる思いがした。正面を真直に見ているつぶらな瞳は、穢れを知らない神々しさがある。

写真家谷山茂氏は、この瞳を撮りたかったのだろうか？この子どもたちに全てを見透かされている様な気さえした。

幼ない頃の自分も、この様な目をしていたのだろうか？もしそうであるならば、自分はこれ迄に失ったものが余りにも大きい。〈相性体力〉・・・、性格は相に現われ、力は身体に現われてくる。疑う事を知らないこの子ども達の瞳は、性格そのものが目に現われているのであろう。よろこびも、悲しみも、苦しみも、そのまま受け入れて生きる。それが私達に感動を与えているのかも知れない。過去、大東亜戦争におけるビルマ戦線で、幾千、幾万の将兵がこの地に眠っている。戦争史上、まれに見る激戦地であったと聞く。亜細亜の解放を目指し、今日の此の日を見る事無く戦地に散った先人達は、此の子ども達を何と見るであろうか？生活の苦しさ涙を流すであろうか？それとも物質は乏しいが、自然と共に生き、真直ぐに前を見つめている子ども達、そこに暮らす人々に賛辞を送っているのか？むしろ、日本の将兵の魂はこの子ども達の中に生きてい

るのではないかとさえ思える。

人間としての本当の幸を感じたい時に、穢れなきこの瞳に逢いに行く事が、もっとも癒される時かも知れない。また、故国に帰る事が出来なかった先人達への本当の供養なのかも知れない。



外務省日本NGO連携無償資金協力事業

ハムシー高校寮改築事業完了！

外務省支援額:約1,752万円



寮の外観



寮の内部

Before



寮の外観



寮の内部

After

目的

ハムシー高校の寮を改築し、子どもたちの教育環境を改善する。

場所

ミャンマー連邦南シャン州タウンジー郡チャウタロン県ハムシー村

実施期間

2007年11月～2008年5月

以前の状況

- ・建物の老朽化は激しく、居住性が著しく低下している。
(シロアリに侵され倒壊の恐れがある、竹材の床は隙間が多く外気の進入や怪我がある、雨漏りがする、等)
- ・寮は既に過密状態で、多くの入寮の希望に応えられない。

改築後の状況

- ・一人当たりの居住スペースが1.5㎡から2.4㎡へ改善された。
- ・現在、187名が新寮に入寮できている。
- ・先生のための部屋を4部屋つくることができた。

チャウスー小規模水力発電事業実施中！

外務省支援予定額:約1,298万円

目的 電気供給事情が不安定な3郡中11ヵ村に恒常的に電気を供給し、対象地域の生活環境改善、児童の学習環境改善を行うとともに、村のための基金を創出する。

場所 ミャンマー連邦南シャン州タウンジー郡タウンジー県及びチャウタロン県の11ヵ村

実施期間 2008年6月～2009年4月

内容 (1)チャウスー小規模水力発電施設(50Kw)を建設する。
(2)1ヵ村への配電施設を建設し582世帯に電気を配電する。
(3)地域委員による配電事業の運営管理を通じて基金を創出し、維持管理の他に村落開発(道路、橋、保育園、学校、診療所等の建設あるいは維持管理、改良等)を行なう。

当会は2008年8月末で募金活動を、9月16日をもちましてサイクロン被災支援活動を完了いたしました。
皆さまのご協力に厚く感謝申し上げます。募金総額：3,108,879円

被災地視察報告

視 察 日：2008年7月3日（木）

視 察 地：ミャンマー連邦イラワジ管区 Dedaye（デダイエ）市街及び同市 Kyon Lar Tar（ジョンラーター）村

視 察 者：大野博之 / NPO法人地球市民の会 専務理事

藤崎博喜 / ひなた村自然塾 園長

平野宗宏 / 玄海漁連水産振興対策室 副室長

目 的：・被災2ヵ月後の現地の状況視察

・日本からの義捐金が現地で有効に使用されているかの確認

現地状況：

被災後2ヶ月が経ち、緊急支援の度合いは下がっているが、基本的な生活基盤が破壊されており、これから厳しい現実が訪れるだろう。Kyon Lar Tar（ジョンラーター）村はほとんどが農家だが、田はすべて流されており、耕作用の水牛が全滅、種物も残っていないなど、災害による精神的ダメージも重なり、これまでは村民は何もできない状況だった。しかし、田植えが7月までも何とかするというので、村民も心を奮い立たせようとしているところである。象徴的なことであるが、なぎ倒された木々が、折れたところから一斉に萌芽しており、復興への期待を感じさせられた。

支援を受けた被災者の言葉：

村人は支援者がはっきりわかる今回のような形態を非常に喜んでくれた。その理由として、誰からもらった恩であるかということが判るからだと話していた。「海外からの支援がどこの誰かがわからないと、感謝の気持ちを伝えることができないのは悲しいことだ」というのだ。



支援物資の受け渡し状況（僧院にて）

ミャンマーサイクロン被害支援へ ご協力ありがとうございました。

支援金の使途報告

支 援 日	金額 (US\$)	内 訳	支 援 地 域
5月26日	1,000	浄水器10個、セラミック浄水器26個、簡易トイレ セット5個、ビニールシート（トイレ囲い）	Hmaw Gyun（モウ・ジュン）
6月7日	2,000	種籾5袋、バスケット59農家分	Dedaye（ダンヤン・タウン・ダン村）
6月8日	2,000	ビニールシート（緊急シェルター用）70軒分	Hmaw Gyun（モウ・ジュン）
6月18日	700	ニンニク1,650Kg	Dedaye（デダイエ）全地域
7月2日～7日	1,680	蚊帳300枚、毛布300枚、インスタント麺360個、石鹼 150本（1本4個）、洗濯洗剤500個、茶の葉漬物300人分、 文具170名分（各人ノート2冊、鉛筆3本、消しゴム1個）、 僧院寄付、小学校への教材費寄付	Dedaye（Kyon Lar Thar村）
8月～9月	7,000	学校建設費	Kawhmu市 タヨウコン地区
9月13日	6,800	米、油	ボーガレー（緊急性のある奥地）

プロジェクトマネージャー柴田の報告（被災地訪問日：9月13日～15日）

初めのうちは国内外様々な団体が支援に来ていましたが、最近は激減し、被災地では困っている人々も多く見受けられました。農業を主産業としている村では、田畑に塩水が入ったり、種や種籾が流されたりして農業すらままならない状況です。しかし、誰であれ支援を永久に続けることはできません。私たちは人々の生活が早く元の状態に戻ることを願ってやみません。

日本で支援してくださった皆様、本当にありがとうございました。遠い日本で応援してくださる皆様がいることをしっかり伝えてまいりました。

お久しぶりです！

ミャンマー通信

約半年ぶりのミャンマー通信です。タウンジー事務所では9月より新スタッフに加わり、賑やかになっているようです。そう、その新スタッフとは・・・昨年度インターンとして現地に派遣していた山内一平氏です！！今回は、正スタッフとして再出発した彼のあいさつと、プロジェクトマネージャーであり2児の母でもある柴田京子の声をお届けします！



◆アシスタントスタッフとしての着任の挨拶

— 山内 一平 —

みなさん、ミンガラバー。ミャンマー事業のアシスタントスタッフとして9月4日よりミャンマーに赴任している山内です。私がこの紙面に登場させていただくのは、約半年ぶりでしょうか？

昨年度はミャンマー事業のインターンとして研修センターのあるタンボジ村とナウンカ村に交互に滞在しつつ、農業の勉強をしたり、学生や村の人に日本語を教えたりしながら、とても楽しく充実した一年を過ごさせてもらいました。

海外生活が初めてである私にとって、ミャンマーでの、それも都市からだいぶ離れたのどかな村での生活は、驚きと戸惑いと不安と涙の連続の毎日でした。しかし、生活をともにしていたタンボジ寮の学生たちは、朝夕の畑仕事の最中にも私が疲れていないかどうか気遣ってくれたり、事あるごとに「サヤー、サヤー（先生）」と人懐っこく話しかけてくれ、落ち込みつつある私を何度も助けてくれました。

また、近隣の村の人たちは気軽に私を招いてくれ、いつも心のこもった温かいおもてなしをしてくれました。カタコトのミャンマー語しか話せず緊張している私を見て、「ミャーミャー・サーバー（たくさん食べてね）」と笑顔でご飯を勧めてくれるオバチャンたちや、空になったグラスを見るや無言で酒を注いでくれる村長さん、酒がすすむと得意のギターや太鼓を持ち出し陽気な音楽を奏でくれる心やさしき青年たちなど、私が村で出会った人はみんな優しく、陽気で、仕事熱心で、家族思いで、そして何ととっても笑顔のすてきな人ばかりでした。私が日本人の一人もいない小さな村で楽しく元気に生活できたのは、本当に彼らのおかげでした。そういう意味では、私のインターン時代の生活は彼らに励まされ、支えられ、勇気づけられた一年だったとも言えます。

今回、アシスタントスタッフとしてのお話をいただいたとき、まず私の頭に浮かんだものはミャンマーの人たちのすてきな笑顔でした。「あの笑顔にもう一度会える」と胸が高鳴り、同時に「今度は私があの人たちのために頑張る番だ」と思いました。

私にとってミャンマーでの最初の一年は文字どおり「感謝の一年」でした。二年目となる今年はその「感謝」の気持ちを行動で表し、「恩返し的一年」となるように頑張っていきたいと思います。

◆チャウタロン奨学金のおはなし

— 柴田 京子 —

TPAでは、TPA福岡の皆様のご協力により、チャウタロン高校で奨学金を支給しています。対象は9年生30名、10年生30名の合計60名の学生です。9年生は日本の高校1年生にあたり、10年生は日本の高校2年生にあたります。

8月の終わりに子どもたちの面接をしてきました。名前、生年月日、両親の職業などから始まって、将来の夢、尊敬する人、大切なもの・・・などいろいろな質問をしました。面接などやったことがない子どもたちは、周りをキョロキョロ見回したり、落ち着かない様子でした。しかし、質問を重ねていくと子どもたちもだんだん慣れてきて、「将来何になりたいの？」「エンジニア」「どんなエンジニア？」「大きい建物が建てられるエンジニア！」など、元気いっぱい答えてくれました。

子どもたちへの奨学金は月に9,000チャット（約900円）です。この奨学金のおかげで進学をあきらめなくてすんだ子どもがたくさんいます。

子どもたちの感想の中に「私は、この奨学金のおかげで高等教育を受けることができました。大きくなって自分でお金を稼げるようになったら、自分のお金で困っている子ども達が学校にいけるように奨学金を渡したいと思います。」と書かれていたことがとても心に残りました。このように、単にお金を支援してもらったというだけでなく、奨学金から助け合いの心を学ぶことができたことは子ども達の将来にとって大きなプラスであると思います。今後もそのような気持ちを忘れず、心も体も大きく成長してほしいと思います。



次回は・・・本年度インターンの佐藤 亮子さんが登場です！！

エチオピア

アベベを生んだ高原の国

青年海外協力隊員としてエチオピアで活動をしている、大神貴謙(材ガミ加)です。この誌面を使って、エチオピアで気付いたことや感じたことをお伝えしています。今回は私が配属先の大学の外で取り組んでいる隊員活動について紹介させていただきますが、最終回の今回はこれまでの隊員活動を振り返った感想をまとめてみたいと思います。

大神 貴謙

途上国にICTは必要か？

途上国を取り巻く状況は、未だ厳しいです。経済成長は進みつつあるものの、その恩恵は一般市民には十分に届かないことが多く、逆にインフレが生活の困窮を招く原因になっています。そんな中で ICT 分野の国際協力を行うことは、果たして適当なのでしょうか。私の導いた答えは、No であり Yes です。エチオピアでは、地方拠点の職業訓練校にも ICT を学ぶコースが設置されています。色々な国際機関からの寄付もあり、一応の授業が進められるだけの設備も整っています。しかし、卒業生に就職先はありません。ICT を活かす場所がないというのが「No」の理由です。他方「Yes」という根拠として、世界に目を移すとこんな例もあります。アンコールワットのお土産向けクッキー屋は、ICT も活用して販路を広げ、日本円にして年商一億円以上を稼ぎ出しています。この違いは何か。ICT が目的になっているか手段になっているかの違いだと思います。

ICT は、様々な分野で威力を発揮できるツールであり、今や必要不可欠なツールであると考えます。ただし、ICT は ICT 単体では何も生み出さない。ICT と現実を繋げる知恵があってこそ、初めて ICT は意味を持つ。そうです、これは途上国に限ったことではなく、世界中のどこでも同じ真理なのでした。

ICT : Information and Communication Technology (情報通信技術) ネットワーク通信によって情報を共有する技術

国際協力とは何か？

エチオピアで一年半も暮らしていると、国際協力の矛盾に気付くことがあります。自国の問題を全て国際機関や NGO に押し付けていたり、彼らから流れるお金を得ることだけが目的となっていたり…。これでは、お互いが不幸です。国際機関や NGO が去った後、そこには何も残らないのが目に見えていますから。そこで、国際協力とは何かということを改めて考えてみました。

協力という言葉は様々な英単語に訳せますが、その中の一つに partnership というものがあります。語尾の -ship は〜であることを表すので、partner であること＝協力が成り立ちます。そして、partner は共同で仕事をする相手を表します。つまり、共同で仕事をする相手同士であることが、協力という意味なのです。であれば、途上国側に仕事のやる気がない場合、国際協力は成り立ちません。

しかし逆に、今の私は途上国側にとって、共同で仕事をするに相応しい人間なのでしょうか。途上国の難しい環境の中、成果の残る仕事をやり遂げるには、高い能力と不屈の信念が必要になると思います。国際協力という言葉の響きは綺麗ですが、その意味は非常に重いものを含んでいるようです。

大切なものは同じ

いつものように配属先の大学に通っていると、ある日こんな張り紙に気付きました。There is no under developed nation as such but under managed ones ――世界に途上国はないが、経営が必要な国はある。これは、かの経営学の巨人、ドラッカーの言葉だそうです。それぞれの国にそれぞれの素晴らしい文化があり、単に経済的な側面から途上国と先進国を切り分けるのは乱暴な気がしていました。では両者の違いは何かという問いに、ドラッカーは既に答えていたのです。

そして私は、経営を成り立たせるためには、時代を御した世界観 (vision) という芯が必要と考えています。世界観なき経営は、行き詰る宿命にあるように思います。高度成長時代後に、新しい世界観が構築されなかった日本は、残念ながらその好例となっているのではないのでしょうか。

大切なものは経営と世界観。そう考えると、エチオピアも日本も、同じ状況にあるように思えます――無軌道な発展の歪みが顕在化しつつあるエチオピアと、人々が発展の希望を見失った日本。私たちは徹底的に思考し、21 世紀という新しい時代を乗り越える武器を手に入れなければなりません。

どうでしたか？ この感想で、少しでも私の考えを感じ取ってもらえたら嬉しいです。

全五回のエッセイ、最後まで読んでいただき、本当にありがとうございました！

タイ奨学金だより

タイ東北部イサーン地方。首都バンコクとの所得格差はいまだに九分の一である。クーキャオ地区もイサーン地方の例外ではなく、換金作物のための大規模な農業形態となり、サウキビやユーカリの畑が延々と続く。従来の自給自足の形態は崩れ、農業機械を購入するために借金を抱える。そのため、バンコクや台湾に出稼ぎに行く事を余儀なくされている。両親と離れて暮らす子供たちにとって、心安らぐ場所はあるのだろうか。

地球市民の会から支援を受けて大学を卒業した里子たちが、小学校、中学校、そして高校の先生となってクーキャオ地区に戻ってきている。彼らは奨学金を受けて中学校、高校と卒業し、国の奨学金を受けて大学を卒業した里子たちだ。イサーン地方では、子供たちにとって学校の先生になることは大きな夢だ。若い先生たちは、夢を実現する素晴らしいさを

つなげる想い……つなげる想い……

タイ奨学金担当理事 西村尚子

次の世代へと伝えている。そして、里親からの支援は、貧しい環境の子供たちにとって、将来に夢を抱いて前向きに生きるための大きな心の支えとなっている。

地球市民奨学金は長年にわたるプロジェクトなので、時代に応じて支援の形も変えていく必要がある。しかし、18年間変わらず実施された歴史が生んだ「人」という成果物は「子どもの未来を作る」新たな輪を広げている。日本からタイの里子たちへの幸せを祈る「つなげる想い」は成長したタイの里子たちによって「つなげる想い」へと昇華している。国を越えて、子供たちの幸せを祈る想いは変わらず続いているのだ。

今年も里親さんの募集をしている。ぜひ、この想いをつなげていきたい。そして、来年の3月に子供たちの卒業式に参加して、子供たちの明るい未来を祝い見届けたい。

韓国人大学生が佐賀にやってきました！

新かちがらす計画2008



地球市民の会は一九八八年から一九九四年までに、計七回に渡って総勢一五〇〇人の韓国人青年を招聘し、友好親善のための民間交流『かちがらす計画』行ってきました。そして今年の夏、新たに『新かちがらす計画』として日韓交流事業が復活しました。七月三十日から八月十日までの十二日間、一八名の韓国釜山(プサン)周辺の日本語を学ぶ大学生が佐賀で、さまざまな人たちと触れ合い、たくさんの方の温かい思い出を残して行ってきました!!!

■日程と主な内容■

- 7月30日(水) 韓国人大学生が18人来日。
ホストファミリーとドキドキの対面!!
- 7月31日(木) 佐賀の学生たちと和菓子づくり&カルタ遊びで交流。
- 8月1日(金) ごみリサイクルの施設(民間施設&市営)に潜入!
夕方からは、子どもたちの夏祭りに参加し日本の夏を体験しました♪
- 8月2、3日(土、日) ホストファミリーとの交流
(浴衣を着て栄の国まつりに行ったご家庭もいらっしゃいました!!)
- 8月4日(月) ショッピングセンターでの買い物を体験!!女の子は買い物三昧だった様子☆ その後、市内公民館で韓国語学習者との交流。
- 8月5日(火) 夏タマテ箱2008に参加して、佐賀の、自然と、子ども達と、思う存分交流しました。
- 8月6日(水) 佐賀大学で日本の学食にチャレンジ!大学の国際協カイベント「となりの貧困」でシンポジウム、ワークショップに参加。
- 8月7、8日(木、金) 佐賀市近郊を自由に視察、見学。
- 8月9日(土) 日本語弁論祭「カチボジウム」、お別れバーベキューパーティー
- 8月10日(日) 韓国人学生帰国



内容盛りだくさんの、12日間でしたが、一部抜粋してご報告したいと思います。



●佐賀のゴミ事情を偵察!●
バスに乗って、武雄市の株式会社イワフチ 西日本広域リサイクルプラザと、佐賀市エコプラザの見学に行きました。やはり日韓共通の問題でもあるゴミ問題ということで、普段見ることのできない設備や説明に、興味深そうに聞き入っていました。また、エコプラザで販売されているリサイクル商品は、一般のお店では見ることができないものも多く、彼らも日本の新たな一面を垣間見ることができたようです。



●お団子と悪戦苦闘!●
来日して、初めての日本人学生との交流会!この日は、毎月、地球市民の会にボランティアに来てくれている、佐賀県立総合看護学院の学生さん四名が参加してくれました。初めは、互いに緊張していた様子でしたが、初体験のみたらし団子作りやカルタ遊びですっかり打ち解け、また同世代同士、色々な話で盛り上がりでした。

●子どもたちと過ごす日本の夏●



夕方から始まった、子どもたちの夏祭り。カキ氷に、ヨーヨー釣りに、流しそうめんにと、手作りが満載！蚊に刺されながらも、西日を浴びながらの子どもたちと楽しむ日本の夏は、とても面白かったです。そして一緒に触れ合っていた子どもたちも、国の違いなんて関係ない！とばかりに、韓国のお兄さん、お姉さんに一緒にたたくさ、国際交流を満喫していました。



●折り紙交流と、尾崎豊と。●

日本語を学んでいる大学生と、韓国語を学んでいる一般市民の方々と交流会！世代の違いがあったものの、お互いに、「相手は、自分達の言語を勉強してくれている」という素敵な交流会でした。会の内容は、それぞれの国の折り紙を教えあう折り紙体験と、みんなと一緒に韓国語の「Love You」を歌うというビックリな内容。なんと！歌は無伴奏だったのです、全員で呼吸を合わせながら、なんとか歌いきり、全員で不思議な達成感を味わいました！



●日本の夏山で合宿体験●

夢の学校をつくる会の、子ども達の山間部での夏合宿「夏タマテ箱2008」に一泊だけ参加した韓国の学生たち。宿泊場所が山間の公民館ということもあり、ちよつとびっくりしていた様子。けれど、澄んだ空気の中で子どもたちと戯れたり、韓国料理のブルコギやチヂミを五十人分作ったりと、普段は味わえないような体験をすることができました。



●佐賀大学生とともに学びました●

佐賀大学オープンキャンパス内で行われた「となりの貧困」では、パネリスト（元青年海外協力隊員の井口さんや、佐賀大学生の、カンボジアでボランティア活動をj学中に行つた小山君、そしてTPAの大野）各々から、貧困問題についての話を聞き、その後、



佐賀 大学生の皆さんと意見交換を行いました。一つのことについて意見を出し合い、集約していくという作業は難しかったものの、貴重な経験になったことだと思えます。その後の交流会では、イケメン小山君が韓国人学生（女の子）に大人気になっていました☆

●日本語で発表！●



帰国前日、韓国人学生の参加者全員に日本語で約3分のスピーチを発表してもらった。日本語のスピーチを聞いて、みなさん、ホストファミリーのみなさん、聞く中、日本やこのプログラムに対する思いを十分に伝えてもらいました。そしてその後にはお別れパーティーを行い、この日本滞在での最後の交流タイムを満喫してもらいました。



参加者の声

- ・ホストファミリーがとても優しく、親切で、自分達を温かく迎えてくれて本当に良かったです。
- ・浴衣を着て、花火を見に行っただけがとても楽しかったです。
- ・子どもたちがとても純粋で、かわいかったです。星も多くて、空気もきれいで、本当に良かったです。
- ・日本人と韓国人は、みな同じだと感じました。私は日本語が上手じゃないけれど、日本人はよく聞いてくれてよくわかってくれました。本当に色々なことを学び、またこのような機会があったら、参加したいと思います。

- ・言葉は違っても、同じことで笑い、同じことで涙し、人の感情はみな同じだとあらためて感じました。「自分達のような若い人が国と国をつなぐ橋になればいい」という言葉が印象的でした。
- ・日本人よりも礼儀正しく、目上を立てるところは今少なくともなりつつある日本の若者にもみ習ってもらいたいし、大人も気をつけなければならないなあと考えさせられました。

ホストファミリーの声

活動報告

夏タマテ箱2008

自立・協力・共生
いろいろなバリアを超える夏

日時：平成20年8月5日～9日
場所：馬場野公民館
(佐賀市富士町関屋)
参加者：小学2～中学2年生 17名
韓国人大学生18名

野菜収穫体験

つみき教室
マイ箸づくり
下草刈り

異文化交流

夢の学校夏タマテ箱2008

榎原湿原散策

蛙をつかめるようになったよ！

昆虫採集
魚釣り

今夜のおかずを釣るぞ！

手話を覚えたよ！

下草刈り頑張ったよ！

ご協力者一覧

おかしら：青柳達也、井上英史、木下博和、久保基行、小松原修、重田音彦、鳥越義則

ご協力者：九州電力 長瀬孝博、堀口勝郎、白浜雅司、榎原湿原を守る会、

内田孝、千曲荘、納富克也、小出繁夫、他富士町関屋の皆様

ボランティアスタッフ：木下博和、山田健一郎、山田紹智、青柳達也、吉村優子、津田慎平、古田悦子、

中園めぐみ、山本桂子、末次咲希、後藤萌萌、栗根里恵、高島正裕(他夢見民スタッフ)、松尾朋子、小柳秀一郎、
林由香、橋本知子、羽野麻友美、眞島三智子 (順不同・敬称略)

ありがとうございました！

うれしいお手紙が届きました！！

『これからも古賀様が掲げられました素晴らしい理想を引き継いで、会長様はじめ皆様のお力で夢の学校がますます発展されますことをお祈りしております。(一部抜粋)』

“私を変えた古賀武夫”大募集

“古賀武夫”の生き方・考え方を引き継ぎ、次世代に伝える為、影響を受けた“古賀武夫”の一言やエピソードを募集しています。これだけは伝えて欲しい、受け継いで欲しいという想いを夢の学校をつくる会までお寄せ下さい。お待ちしております！

夢の学校が多くの方に支えられていることを感じ、勇気をいただきました！！これからも理事・職員一同頑張ってます！！

武ちゃん語録 下の感性智が、上の知性智を支え、感性と知性の「調和」が身体智となり、ヒトは人となる！

「夢の学校への思い」⑤

瑣事こだわるべからず

副理事長

江打 正敏

古賀武夫先生が逝かれてから、半年以上が過ぎてしまいました。「去るものは日々に疎し」と言いますが、古賀先生の場合は、皆の心の中に残っているようです。

古賀さんの夢の学校への思いは、巨象みたいなもので、私達はその一部にさわっているかも知れません。

私なりに思えば、江戸時代の寺子屋の「読み書き・そろばん」＋藩校の「文武両道の精神」＋「国際的に通用する人間」ではないかと思えます。

わかりやすく言うと、人間としての考え、基本がしっかり出来てかつ、自由自在な人間ではないかと思えます。今は、テレビ、ネット、ケイタイで得られる雑多で軽薄な情報知識が多くて、子供も大人もそれに惑わされ、「言っても良いこと悪いこと」「どんどんやったがいいこと、自制すべきことは何か」などが解らなくなっている。

子供の時代のある期間は、テレビ、ネット、ケイタイを使用禁止にして、古今東西の古典に親しませ、礼法を含む文武の道に励ませ、汗を流す職場に継続して働かせることを提案する。

これらのことにより、古賀さんの言う「つよくやさしく、やさしくつよく」の人間が出来るのではないかな。もちろん今の時代の世間、学校、家庭のあり様からして、そんなキツイ、大変なことには見向いてくれないかもしれない。でも、一部には、きっと応じてくれる親、家庭もあると思う。細くて、いつ頂上にたどりつける道かも知れないが、少しでも実践するより他あるまい。

余禄

「武士道」を書いた新渡戸稲造、「余は如何にしてキリスト信徒となりし乎」の内村鑑三などの大先達は、1日のうち18時間はぶっ通して本を読んだとある。それでもって確固とした考えが出来た。余計なことにキョロキョロせず、瑣事にこだわるべからず。「孟子」のいう王道を歩ませるべし。

「私の考える教育とは？」⑤

子ども達の成長を楽しみに

芸術(華道)おかしら

前田 星萌



夢の学校に伝統文化華道教室のおかしらとして生け花を教え、三年が経ちました。一年生だった児童も三年生になり、五年生で華道教室を卒業した児童が今だに生け花の魅力にひかれ、私の自宅にお稽古に通っています。

私は子どもが大好きで、子は國の宝、子育ては一番大切なことと思っています。現代は働いているお母さん方が多く、男女共同参画社会が叫ばれ、女性も社会も元気になって結構なことです。尚のことしっかり子どもとコミュニケーションをとることが大切だと思います。「あれは何、これはどうするの。」子ども達の好奇心は旺盛です。私は七十四年間いっぱい人生を経験したおばあちゃん先生として、子ども達の心の部分を受けとめ、子どもの能力を伸ばしていこうと思っています。

私は子ども一人一人とよく話をします。お花の手直しをする時はよく説明をし、自信を持つように良く出来たことを納得いくようにほめます。子どもが深くうなずく時は、大人も子どもも皆同じ真剣な心と、ことばは通じ合うものだと思えます。

八月の夏休みのある日、子ども達と花屋さんに見学に行きました。「今日生けるお花は自分の好きな材料を選びましょう。」子ども達は目をかがやかせ、うれしそうに色とりどりの花を手にし、大事に抱きかかえ、持ち帰り、生けました。その日の教室の空気はいつもと違い、満足にみちた子ども達の姿でした。出来ばえも見事でした。その後日、お花屋さんが「先生、夢の学校の男の子どもさんが、毎週お花を買いに来られ、家で生けているそうですよ。『敬老の日には、おじいちゃんとおばあちゃんに生けてあげるの。』と、お花をいっぱい買って帰られました。お母さんもついてこれ、『子どもが生けたお花ですよ』と、携帯電話で写した作品を嬉しそうに見せてもらいましたよ。」

いつの間にか、子ども達の心の中に人を愛する心、思いやりが芽生えていることを感じます。感動、感謝、志を持って、世の中のお役に立つ人間に育ってくれる事を願っています。

ご協賛

【法人】株式会社サガプリンティング、株式会社小出速記事務所（順不同・敬称略）

【個人】4名

（2008年9月末日まで）

夢!情熱!感動!

OB, OG, 卒業生は宝物です vol.4



入門時の松尾君。
六才から変らぬ凛々しい
眼差し

古賀道場「ようこそ先輩」第4弾

武夫先生自慢の「空手道場三羽鳥」と言えば、泣く子も黙る？吉村洋祐君（新婚ホヤホヤ♡）、期待を裏切らない・ハイパー翔ちゃんこと山下翔一君、そして今回の筆者・未来の総理大臣、松尾大輔君。彼らが高校、大学の頃、古賀道場は怖いものなしでした。現在、寝る暇も無いほど多忙な松尾君が、恩師である古賀先生の思い出を綴ってくれました。

「黒帯を取れない人はいない。黒帯を取る前にやめるから黒帯を取れないんです。」

古賀先生との出会いは、小学一年の四月。軟弱体質を叩き直したいという親の希望で、古賀道場に放り込まれたからである。それから十八年、古賀先生から多くの事を教えていただいた。時に言葉で、時に体で、そして時に行動で。この原稿の依頼を受けた時、その中から何を書くべきか、まとめきれずに時間だけが過ぎていった。

しかし、色々と悩む中で、ふと私の中にうかんできた古賀先生の言葉がある。それが、冒頭の言葉である。この言葉、一見当たり前前の事を言っているが、よくよく考えてみると道場主の自分勝手な言葉である。が、今さら古賀先生相手に自分勝手を論じても仕方がない。(笑)むしろ私はこの言葉の中に、「なぜば成る、為さねば成らぬ、何事も。成らぬは人の為さぬなりけり。」という上杉鷹山の言葉に通じるものを感じ、自省のための言葉としている。

古賀先生に教わったもの

松尾 大輔

人間やってやれないことはない、古賀先生の人生そのものが私達にそのことを教えてくれている。「人間の翼」然り、地球平和道場然り、英語ミュージカル然り、そして地球市民の会では海外、国内問わず、先頭に立ってその活動を広げていった。その行動にはときに無理や反発もあったかもしれない。しかし、古賀先生の行動が多くの人を支え、多くの人に支えられ、そして人々の心に大きな足跡を残していったのは、まぎれもない事実である。古賀先生には人を惹きつける夢があり、理想があった。そして、その実現に向けて信念を持って懸命に動く古賀先生の姿に、周りの人間が巻き込まれていったからこそ、之だけ多くの人々が古賀先生の周りに集まったのではないだろうか。

古賀先生にいただいた最も大切な教養は、種々の技術や知識より、人生の生き方そのものであった。先生に恥じない生き方、死ぬ瞬間まで懸命に生き抜く。そのことをしっかりと胸に刻んで、これからの人生を歩んでいきたいと思う。



松尾 大輔 (まつお だいすけ)

1983年生 弘学館高校 東京大学卒

小1～高3まで古賀道場で学ぶ。抜群の統率力でH13には弘学館高校をインターハイに導く。

東大卒業後は、総務省に入省。道場の鏡開きでひたすら「白餅」を食べる彼についての愛称が、「餅奉行」。白餅を食べると頭が良くなると信じ、後に続いた後輩がいたとかいなかったとか・・・将来は、佐賀そして日本を担う大人物になると、大いに勝手に期待している今日この頃です。

H19年8月、和道流全国大会で古賀先生を監督に、団体組手で悲願の堂々3位を獲得！左から中溝大介君、吉村直記君、古賀先生、松尾君。全国大会で恩師に最後の恩返し☆

協力者一覧

正 会 員

秋葉幸伸	坂井学	平井八重子
芦刈正則	佐久間博	平野宗宏
芦刈由美子	櫻井愛子	深川千幹
麻生靖史	指山弘養	福井丈一郎
阿部功	薩摩和男	福岡資磨
阿部剛	佐藤昭二	藤崎博喜
天ヶ瀬三津代	篠原裕一	藤戸博
有澤正典	杉光省五	古川こさと
安心院晶子	杉本互	古川昌宏
池田瑛	瀬戸幸子	保利耕輔
石井訓志	瀬戸晶子	前田昌子
井手保昌	瀬戸法子	牧瀬弓子
稲垣千佳子	副島正幸	増田誠司
稲富正人	田口光雄	松尾雄次郎
井上常憲	田島広一	松尾侑美
井口潔	田中清一	マツダタカシ
今泉佳那子	堤加奈子	松林佑典
今泉孝昭	土井美智子	丸山文章
今村雅弘	徳光清孝	瑞木一博
岩崎正	豊川悦郎	水野新平
岩本かおる	永倉遵五郎	溝内明
植木宏徳	中島法道	溝上茂
上地章夫	中島與助	溝岡聰
上野知子	中曽根健三	峰悦男
内田泰	永富文	宮嶋寛治
大串俊三	中西和彦	宮嶋美子
大串博志	中野典正	無量井知昭
大島泰輔	中溝大介	本村満江
大野勝	中村俊範	本山義夫
尾崎義朗	中村裕英	桃谷松美
小野悦子	西澤和明	森永勝馬
勝部美樹	西村一守	八坂信雄
川副春海	西村尚子	弥富陽子
川原田キャサリン	新田一雄	山口晃
菊野善久	二町一成	山下定美
北原壽豊	野上俊樹	山下雄司
木原奉文	野口尚子	山田貴子
木村方子	野口翔平	杠研一郎
久保正敏	野田誠	横尾孝幸
栗田明	野本正彦	吉田幾多郎
古賀愛基	畑文恵	吉次孝
古賀康宣	八谷まち子	吉本正光
古賀智津子	原康彦	力武修
古賀芳夫	原陽子	力久修
古賀友大	原利幸	渡邊勝
古賀和夫	原口一博	
小柳哲朗	春木伸哉	

学 生 会 員

荒谷淑恵
片山ゆう子
古賀慈猛
樋口七菜

維 持 会 員

古賀洋子
村上説男

団 体 会 員

株式会社 北島
株式会社 佐賀銀行
佐賀信用金庫
リコー九州株式会社
佐賀支店
有限会社 ティグレ
福岡内科消化器科医院
株式会社 福岡商店

少 年 会 員

中山康平

購 読 会 員

石橋武才
熊本由美子
古賀久志
高田理恵
仲山徳隆
田中礼子
御厨初美
村田修一

タイ クーキャオ高校

円城寺久好
古賀信子
塚本信子
納江幸利
萩原喜代子
松林久美子
的野直喜
尊田百合子
森田由香
八田康博
横尾美里
秋吉恵介
秋吉五郎
梅崎美佐子

タイ クーキャオ中学

江口隆通
江口典子
円城寺久好
大島佐江子
蒲生正裕
川平勝巳
倉富博美
古賀洋子
小園折馬
佐藤隆之
杉本奈巳
田中裕子
田中涼子
田久保克明
塚本信子
徳永千恵
徳永務
中島文子
中園めぐみ
永田康子
永富丈
南里玲子
納江幸利
野口智代
馬場龍之介
引地玲子
樋口靖子
平野京子
福井丈一郎
福本淑子
細貝睦子
松瀬直美
的野直喜
宮崎照子
武藤鼓
吉井学
吉田純子
渡辺善文

タイ ポーゲウ校

松尾成子
松尾隆弘
松瀬直美
松林久美子
豆田美穂子
宮嶋トミエ
山下陽子
山田房子
吉田純子
奥蘭稔
唐沢利夫
北原壽豊
古賀信子
小園折馬
西村尚子
納江幸利
野口尚子
林花寿映
原田典子
平岩佳名子
福井丈一郎
福田文子
藤木修
古川こさと
寶泉正美
眞崎健次郎

書き損じはがき・古切手ほか

麻生美矢子
弥富陽子
横尾美里
磯部芳子
馬淵功
福田幸夫
富野ともえ
NHK佐賀放送局
吉井久子
原田栄治
匿名
(有)久保薬局
つつみクリニック耳鼻科
河原康子
九州電力 佐賀営業所
料金運営グループ

寄 付

富野ともえ
匿名

※2008年6月～9月末日まで

※順不同で掲載させていただいております。

※大変失礼ですが、敬称は省略させていただいております。いつも本当にありがとうございます!!

古賀道場の新しい先生の紹介



●古賀大之(こが だいじ)師範
和道流空手道参段 技術指導員
6才から叔父であり、師匠である武夫先生の下、空手・英語をしごかれる。奥様と前職の方々のご理解により、5月から着任。趣味はPTA活動。特技は宝石磨き(プロ)。36才。小学生のかわいいお嬢さんと息子さんの優しいお父さん☆



●青柳達也(あおやぎ たつや)先生
米国セーラム州立大学元助教授。身体表現演劇専門。
武夫先生のありとあらゆる攻撃に逞しく耐えてきた古賀英語道場1期生。高校・大学を米国で学ぶ。海外で培った語学力、専門の身体表現で、道場そして佐賀に新風を吹き込む。心に春がいっぱいの花の33才。

11～3月のお知らせ ●は地球市民の会、★は夢の学校 ♥は古賀道場の行事です

●さが国際交流・協力フェスタ'08に出店しま～す!!

11月24日(祭日月曜日) 場所:アバンセ(佐賀県立女性センター・佐賀県立生涯学習センター:佐賀市天神三丁目2-11 TEL0952-26-0011)
お店の名前は「アジアガーデン」コナツミルタピオカの試食とフェアトレードとしての女性自立の草木染販売のお店です。
今年のテーマは「タイの学生」
地球市民の会の奨学金を受けている子どもたちの今の思いや夢などを、彼らの写真と共に紹介します。 感動必至!

●佐賀県協力隊を育てる会 設立総会と記念講演、設立パーティー

12月6日(土) 場所:若楠会館 時間:16:00～設立総会 16:30～記念講演 18:00～懇親会
地球市民の会の内部組織でした青年海外協力隊、シニアボランティアの応援団、協力隊を育てる会が、いよいよ独立します。
理由は、協力隊の隊員の希望者減少や、帰国隊員の県外流出の増大という問題を解決するために、活動の活性化が必要になったためです。
設立記念講演は元ペルー大使で現・社団法人協力隊を育てる会(東京)副会長 青木 盛久氏です。

●ワークショップセミナー 平成20年度九州・沖縄ブロック環境NGO活動発展のための組織運営講座 『組織力アップで地域をひらく!』～資金調達と協働を身に付ける～

1月23(金)・24日(土) 場所:佐賀市 佐賀県青年会館 時間:10:00～

●地球市民の会25周年記念事業 「人間の持つべき文明2008」

2月8日(日) 場所:ホテルニューオータニ佐賀 時間:13:30～
基調講演(上甲見先生)、パネルディスカッション(上甲見先生、マリ・クリスティエヌさん、佐藤昭二地球市民の会会長)、記念パーティー

♥第29回古賀英語道場英語劇祭

12月24日(水) 18:00～ 場所:エスプラッツホール
今年も子ども達の楽しく、心に残る英語劇を披露します。

●地球市民文化祭(仮称)

3月7,8日(土、日) 場所:アバンセ
アバンセを全館借り上げて、体験型学習の文化祭を開催します! 詳細次号、乞う御期待!

★夢・道場共同プログラム ドパスで自然を描こう

11月9日

★週末親子プログラム(食・いのち)

11月15日

★夢の学校タマテ箱英語劇祭出演予定

12月24日

募集



『タイとスリランカの子ども達の里親さんを大募集!!!』

地球市民の会では、タイ・スリランカの中高中生に教育の機会を提供しています。
現在、タイ地球市民奨学金、ならびにスリランカ「シショダ奨学金」の里親さんを大募集中です。
タイの里親さんはあと32名、そしてスリランカの里親さんは5名を募集しています。
詳しくは、下記をご覧ください。みなさん、どうぞよろしく願います!!
タイ……支援期間:2008年5月～2011年4月
支援金額:総額36,000円(クーキャオ中学、ボーゲウ校)、総額54,000円(クーキャオ高校)
スリランカ……支援期間:2009年1月～2010年12月
支援金額:総額32,000円
※現在、スリランカで起こっている物価高騰のため、奨学金支援金額の検討・調整を行っております。
つきましては、金額に若干の変更が生じる可能性がありますのでご了承ください。
お支払い方法につきましては、事務局にお問合せください。

スタッフの
ひとこと

捨てられないもの

地球市民の会

- | | |
|-------|--|
| 大野 博之 | 高校～大学時代から今までに買った文庫本。いつか再読しようと思いつつ、それもなされず、場所だけ取っています。いつか時間ができたときは、文庫本のハシが黄色くなって、読めなくなったりするのかな? |
| 畑 恵子 | 高校時代からキープしているオコジョのテレホンカード。もちろん未使用。今は職場の机に置いて目の保養にしています。 |
| 内山真理子 | 中学生や高校生のときに友達とやり取りした手紙が捨てられません。かわいらしい便箋や手書きのイラスト入りのメッセージをたまに引っ張り出して読むと、ほのぼの～として、当方が懐かしくなります。 |
| 西村 尚子 | 昔からのスケジュール帳と本。その時々、自分が何を、何を考えていたか、良くわかります。そして、遣り残してきたこと……も。この年になっても捨てられない想いがあります。 |
| 納富ハヤ子 | 若かりし頃に着ていたスーツ。とっくの昔に腹まわりが入らないのに、もったいなくて、中々捨てきれない……。 |

古賀英語道場・空手道場

- | | |
|-------|--|
| 古賀 洋子 | 何であっても捨てる時には、ものすごいエネルギーが要ります。中でも、人形・ぬいぐるみなどは、どう考えてもゴミに出すことができません。「捨てないでー!」という声が聞こえてくるんです。 |
| 山下 春美 | 子ども達が小さい頃の服(中にはオムツカバーも……)、幼稚園の作成物等。押入れを占領してて、今度こそはと思うけれど、また、仕舞い込む。その繰り返し。実家には私が高校の頃の制服があるらしく、これは完全に遺伝です。 |
| 古賀 大之 | 基本的には物には愛着をもち、物を溜め込まない方なので、特別捨てられない物というのはないのですが、しいて言えば食べ物かな? 出されたものは残さず食べるようにしています。お陰でいつも食べ過ぎて困っています。 |
| 青柳 達也 | 大学時代から研究のために集めた演劇の書類、専門書、雑誌などを何箱もアメリカから送ったのはいいのですが、きつと捨ててもいいものもたくさんあるはず。まだ箱も開けてません……。 |

夢の学校をつくる会

- | | |
|-------|---|
| 相良 伸武 | 体に沁み付いた若かりし頃の記憶。サッカーの虜となって早27年。体の衰えを感じつつも、未だにサッカーとフットサル2チーム掛け持ちで頑張っているサッカーバカです。私の中では華麗に相手を抜き去っているはずが、体がついて行かない今日この頃、若かりし頃の記憶を捨て、今の自分を見つめ直さねば……。 |
| 吉村 薫 | う～ん。大切な物から不要な物まで捨てられな～い私。部屋の中は宝の山? しかし、一番捨てられない物は……思い出のアルバム。 |
| 秦 智美 | 子どもの頃の栄光? 入選、昇級の賞状や100点の答案から、クラスでもらった小さな「がんばったで賞」まで。将来、わが子に自慢できるように、もう少し捨てずにいようかな。 |

地球市民ネットワーク

■北海道地球市民の会
〒061-3214 北海道石狩市花川北4条2-197
会長/阿部功 事務局/新保知博
TEL・FAX: 0133-74-1296

■地球市民の会ふくしま
〒963-8681 福島県郡山市喜久田町1丁目120-1
(株)石黒
会長/事務局担当 石黒秀司
TEL: 024-959-6426
FAX: 024-959-6577

■地球市民の会東京
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-2-13
会長/有澤正典 事務局/青木高広
TEL: 03-3662-0331
FAX: 03-3662-0400
E-Mail: aoki@nun.co.jp

■地球市民ACTかながわ
〒231-0821 神奈川県横浜市中区本牧原3-1-203
会長/近田真知子 事務局担当/伊吾田善行
TEL・FAX: 045-622-9661
E-Mail: port@tpak.org

■地球市民の会さく
〒501-6241 岐阜県羽島市竹鼻579-1
竹花園内
会長/森幹治 事務局担当/平井八重子
TEL: 058-391-5415
FAX: 058-391-8600

■地球市民みえの会
〒514-0027 三重県津市大門7-15津センターバース3F
津市民活動センター内
会長/伊藤洋之 事務局担当/秋葉幸信
TEL: 059-226-5700
FAX: 059-224-8911
E-Mail: mitemiemie21@hotmail.com

■地球市民の会京都
〒605-0873 京都市東山区下島町484
会長/宮川尚子 事務局担当/西田一貴

■神戸戸有頂天倶楽部
〒657-0045 神戸市灘区下河原通り3丁目4-3
会長/松元隆司 事務局担当/大西陽治

■愛媛地球市民の会
〒790-1121 愛媛県松山市中野町甲640
はばたき授産圏内
会長/篠崎和夫 事務局担当/丹生谷宗久
TEL: 089-963-3772
FAX: 089-963-3795

■北九州地球市民の会
〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町1-5-14
中央会館2F
会長/河野一郎 事務局担当/大山研児
TEL: 093-521-8181
FAX: 093-551-2296

■地球市民の会福岡
〒814-0164 福岡県福岡市早良区賀茂2丁目30-4
(株)増屋内
会長/増田誠司 事務局担当/西村和寿
TEL: 092-801-5888
FAX: 092-801-5789

■(特活) コミネット協会
〒861-0039 熊本市長嶺南2丁目5-31
会長/山口久臣 事務局担当/富田、田中
TEL・FAX: 096-387-7139

■古賀英語・空手道場
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10
TEL: 0952-25-2295
FAX: 0952-26-4922

■夢の学校をつくる会
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10
TEL: 0952-22-6262
FAX: 0952-26-4922

ネットワーク・テラ 秋号 VOL.132

発行/
特定非営利活動法人 地球市民の会
〒840-0822
佐賀県佐賀市高木町3-10
ホームページ: <http://tpa.nk-i.net>
E-mail: office@tpa.nk-i.net
TEL: 0952-24-3334
FAX: 0952-24-7321
発行日/2008年10月31日
発行人/佐藤昭二
編集人/地球市民の会 事務局
印刷/株サガブリんてぃんぐ